

サウジアラビア 王国の文化

民族衣装

サウジアラビアの男性は、白いワンピースのような「トープ」を着ます。

頭には白地に赤い模様のスカーフのような「シュマーグ」、または白い「ゴトラ」をかぶり、黒い「イガール」で固定します。

「トープ」は暑い気候に適し、「シュマーグ」は強い日差しや、砂から顔や頭部を守ります。

女性は、衣服の上に黒いローブのような「アバーヤ」を着ます。さまざまな柄や刺しゅうなどで飾られたおしゃれなものもたくさんあります。

スカーフのような「ヒジャーブ」で頭髪を覆いますが、「アバーヤ」との組み合わせで、おしゃれを楽しみます。



ウード(香)

何世紀もの間、サンダルウッド(白檀)、ムスク、ジャスミン、アンバー、乳香、没薬(もつやく)などに由来するウードは、世界の多くの地域で金よりも貴重でした。

サウジアラビアでは日常的に香りを楽しんでおり、手工芸品のマブハラ(香炉)で焚くウードは、サウジアラビアの家庭でも行われるもてなしの一つです。来客の予定があれば、まずウードを焚き、カフワ(アラビックコーヒー)とドイツ(ナツメヤシ)で歓待します。



住居

サウジアラビアの住居はとても広い造りとなっています。国土のほとんどが砂漠におおわれ、気温が高く乾燥している厳しい自然環境のため、住環境に鮮やかな色を取り入れる習慣があります。また、サウジアラビアの住居は、日本の住居に比べると窓が小さくできています。これは砂嵐による砂の舞い込みを防ぐためです。



学校

サウジアラビアの教育制度は、日本と同じ6・3・3制で、義務教育は15歳までです。日本と違うのは、イスラムの教えによって小学校から男女別学なところ。サウジアラビアでは月曜日ではなく土曜日から学校が始まり、金曜日が日本の日曜日にあたります。授業の開始時間が早いため、小学校の高学年になると7時間目まであります。また、日本にはないような「イスラム法学」や「コーラン」といった宗教の授業があるのが特徴です。

カフワ(アラビックコーヒー)

サウジアラビアのカフワは、一般的に浅煎りしたアラビカ豆を使用し、地域によってサフラン、シナモン、カルダモンやクローブなどを加えて沸騰させ濾さずに供されます。

ダツラと呼ばれるコーヒーポットが使われ、日本の盃のようなフィンジャー(カップ)に注がれます。フィンジャーを手で覆って合図をしない限り、ホストまたはウェイターは何度でも注ぎ続けます。



ヘナタトゥー

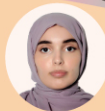
日本人女性には、ヘナタトゥーを体験してもらいたいです。しゃれた様々なデザインがあります。

※ヘナタトゥーは婚礼や女性同士の集まりなどで行われており、2週間ほどで消えるおしゃれなファッションとして親しまれています。

From 留学生



From 留学生



ドイツは、種類もたくさんあって味も違います。アラビックコーヒーとともに出されることが多いです。コーヒーの苦味とドイツの甘さが調和しているので、日本人には両方試してみることをお勧めします。